

2011年度春季大会の報告

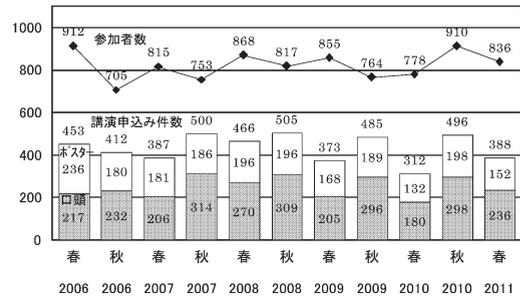
2011年度春季大会は、国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区代々木神園町3-1）を会場として2011年5月18日（水）～21日（土）に行われた。東日本大震災の影響が心配されたが、参加者数（前納登録者と当日受付者の合計）は836名で、これまでの春季大会と同程度であった（第1図）。

2日目午後には、同センター大ホールにおいて総会が開かれ、岡本 創氏に日本気象学会賞が、田中 浩氏に藤原賞がそれぞれ授与された。総会に続いて受賞者による記念講演が行われた。3日目午後には、同会場において大会シンポジウム「変動する地球気候の鍵—南極・北極—」が開催され、5件の基調講演と総合討論が行われた。

大会期間中は、ポスターまたは口頭発表による一般講演、並びに特定のテーマに基づいてコンピーナーが編成する7件の専門分科会が行われた。一般講演の発表申込み件数は307件（内訳はポスターが152件、口頭発表が155件、口頭発表1件当たりの持ち時間は10分）、分科会は81件で計388件であった。

会期中およびその前日には、教育と普及委員会・航空気象研究連絡会主催による公開気象講演会「航空安全のための気象学」を含め、個別のテーマによる7件の講演会や研究連絡会も開かれた。

また、今大会では、従来の賛助企業による出展の他



第1図 過去5年間の大会参加者数と講演申込み件数（口頭、ポスター）。

に、若手研究者のキャリア形成を支援するための「リクルートブース」が、日本学術会議 IAMAS（国際気象学・大気科学協会）対応小委員会の協力の下で試験的に設けられた。

今大会では東京大学大学院理学系研究科・先端科学技術研究センターおよび国立極地研究所の皆様には大会実行委員として大会準備・運営にご尽力頂くとともに、ボランティアとして大会運営にご協力頂きました。ここに深く感謝の意を表します。

2011年6月 講演企画委員会